

大会名 Competition	第37回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-104	Year Month Day Time 2024 年 5 月 3 日 16 : 00
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA 能代科技 77 ●	12 1st 26 20 2nd 26 19 3rd 33 26 4th 21 0 T	チームB 日本航空 106 ○
-----------------------------	---	------------------------------

主審:Crew chief
田中 直幸 秋田
副審:Umpire
村上 智志 山形
佐々木 飛翔 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
能代高校女子

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	／	佐藤 悠斗		5	1	0	2	2	0	／	西田 壮良		2	0	1	0	0
5	×	畠山 悠仁		3	1	0	0	0	8	／	菅野 幸世		5	0	2	1	0
8	×	吉岡 寿吉	cap	0	0	0	0	0	11	／	宮野 大知		2	0	1	0	1
9	／	山崎 七星		32	1	11	7	1	12	／	萩原 迅		2	0	1	0	2
10	／	鈴木 慶人		1	0	0	1	2	9	／	井ノ岡 源聖		5	1	1	0	0
11	／	宮田 蒼羽		5	1	0	2	0	22	／	望月 陽生		2	0	1	0	1
12	／	近藤 愛翔		3	1	0	0	0	23	×	林ハルミ・ジェラマイア		6	0	3	0	0
13	×	安藤 璃琉		9	1	3	0	1	25	／	鈴木 漣		5	1	1	0	1
14	／	名古屋 蒼良		0	0	0	0	1	30	×	大道 一步	cap	14	1	5	1	1
15	／	熊澤 隼		10	0	5	0	3	34	×	久保田 楓羽		2	0	1	0	1
16	／	下田 瑛斗		0	0	0	0	0	58	／	中西 哲太		15	3	3	0	1
17	／	金 隼輝		4	1	0	1	1	77	×	高橋 蓮夢		13	1	5	0	2
18	×	松田 来翔		0	0	0	0	2	31	／	本郷 匠ノ秦		2	0	1	0	1
19	×	信太 虹輝		5	1	0	2	1	88	／	ジャキザカリア モリハ		15	0	6	3	4
20		大嶋 遥佳		-	-	-	-	0	99	×	三村テール アンソニー		16	0	8	0	2
コーチ		長谷川 聡						0	コーチ		山本 裕						0
コーチ		遠田 貴大						0	コーチ		鷺山 翔哉						0
合計				77	8	19	15	14	合計				106	7	40	5	17

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 イントシュート 2P:2P率 イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	32	41.56%	山崎 七星
2	10	12.99%	熊澤 隼
3	9	11.69%	安藤 璃琉

1	16	15.09%	三村テール アンソニー
2	15	14.15%	中西 哲太
3	15	14.15%	ジャキザカリア モリハ

Score ranking [Game]

1	32	山崎 七星	能代科技	2	16	三村テール アンソニー	日本航空	3	15	中西 哲太	日本航空
									15	ジャキザカリア モリハ	日本航空

昨年のインターハイ王者山梨の強豪、日本航空と、伝統ある能代カップに1・2年生で臨む能代科技の対戦。

1Q、日本航空はゾーン、能代科技はマンツーマン。能代科技は#5畠山の3Pに地元の拍手喝采の好スタート。日本航空は留学生として世代No.1の呼び声高い#23ジェラマイアの鉄壁の守備から速攻が展開され、#99アンソニーが攻守にわたりゴール下で存在感を放つ。能代科技は経験の浅さからミスが続き、インターハイ王者が容赦なく猛威を振るい、12-26。

2Q、日本航空#30大道が安定感抜群なガードで試合を支配し点差を離していく。能代科技はチーム全員が動きドライブから合わせて得点。ディフェンスでは前からプレスをかけたり、ルーズボールでは最後まで追う姿勢など良いプレーも見られた。日本航空は#9井ノ岡、#58中西のベンチメンバーの活躍など選手層の厚さもあり、前半を32-52で折り返す。

3Q、能代科技は素晴らしいパス回しのボールムーブメントを見せるがシュートを沈めきれないが、果敢なアタックを続け諦めない。対する日本航空は安定したチーム力で流れを渡さず、新1年の留学生#88モリハのハッスルしたゴール下や球際も荒さはあるが、51-85で最終Qへ。

4Q、日本航空はベンチメンバーの出場時も終始圧倒し差を詰めさせない。能代科技#9山崎が試合を通じて32得点の活躍など最後まで奮闘を見せるも、日本航空がチーム力で圧倒。77-106、両チームとも一戦一戦経験を重ねてプレーに磨きをかけ、いいチームになってほしいと思わせる試合であった。

文責 【 木村 三星 】